

今週（6月6日から6月10日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週を通して大きな変動がなく、落ち着いた展開に終始した。日銀当座預金残高が280～285兆円程度と、引き続き高水準で推移する中、無担保コールO/Nは概ね▲0.08～▲0.03%のレンジで取引された。引き続き地銀・証券業態の調達意欲は高く、一部では▲0.025%での出会いも見られた。無担保コールO/N加重平均レートは▲0.05%程度での推移となった。ターム物に関しては、一部で運用レートを切り下げた先が見られたことで、1W～1M物で▲0.05～▲0.025%の出会いが中心となった。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、9日に2W・8,000億円がオファーされ、結果は2,081億円（期落ち分2,500億円）で札割れとなった。

9日には「日本銀行当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率の見直しについて」が公表され、6月から8月の積み期間の基準比率を7.5%とすることが決定された。政策金利残高（金融機関間で裁定取引が行われたと仮定した金額）の見直しについては、「平均して概ね10兆円台になる見込み」と記載されていた。日銀が当初想定した範囲（10～30兆円）の下限で推移すると見込まれることから、マクロ加算残高が若干厚めに配分されたとも解釈できる数値であった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、6日のT/Nが▲0.10～▲0.085%の出会いと、短国買入オペ等の要因があったことから、前週より低めのレートの出合いで始まった。その後は▲0.10～▲0.09%のレンジで推移していたが、短国6M物の発行日となる8日のS/N、短国3M物の発行日となる9日のS/Nでは、売り手の資金調達意欲が強く、レートは若干上昇し、▲0.09～▲0.08%の出合いとなった。しかし、10日のS/Nでは、短国買入オペ等の要因でレートは低下し、▲0.10～▲0.095%の取引となっていた。

SCIは、新規・ロールオーバーともに幅広い銘柄で取引が見られた。個別銘柄では、10Y 340～342回、30Y 48～50回、40Y 8～9回にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、引き続き深いマイナス圏で推移していることもあり、週を通して閑散小動きのマーケットとなった。

8日には6M物の入札が行われた。WI取引で▲0.39～▲0.35%の水準で出会いが見られる中、結果は平均落札利回▲0.3505%、按分落札利回▲0.3387%と過去最低を更新する強い結果となった。9日の3M物入札については、平均落札利回▲0.2629%、按分落札利回▲0.2505%と引き続き堅調な結果となった。10日には国庫短期証券買入オペが前回は7,500億円増額の1兆7,500億円でオファーされ、平均利回較差+0.012%、按分利回較差+0.009%となった。オファー額が予想よりやや多かったこともあってか、落ち着いた水準での決着となった。

●CP市場

今週のCP市場は、商社・鉄鋼・石油業態等から大型の発行案件が実施され、4,300億円弱の償還に対して、5,100億円程度の発行が見られるなど、発行超のマーケットとなった。事業法人においては、賞与や配当等の季節要因から、資金調達需要が底堅く推移しているものの、金融法人の発行は殆ど見られていないこともあり、発行残高は先週以来14兆円台前半で推移している。a-1格相当の銘柄の発行レートは、概ね0%近辺となっていた。

CP等買入オペは、6日に前回と同額の4,500億円でオファーされた。今回は、買入対象として採用された銘柄の数が比較的多く、一部銘柄の売却ニーズは強かったものと目され、平均落札利回▲0.001%、按分落札利回▲0.004%といずれも前回比で上昇する結果となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
6/6 (月)	16,580.03	△ 0.125	106.94	△ 0.050	△ 0.095	2,827,300
6/7 (火)	16,675.45	△ 0.125	107.77	△ 0.049	△ 0.095	2,855,400
6/8 (水)	16,830.92	△ 0.115	107.05	△ 0.049	△ 0.094	2,854,600
6/9 (木)	16,668.41	△ 0.130	106.60	△ 0.050	△ 0.092	2,856,500
6/10 (金)	16,601.36	△ 0.155	107.08	△ 0.049	△ 0.086	2,856,100

来週（6月13日から6月17日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
6/13 (月)	4-6月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管) 4月のマネタリーサーベイ(日銀)	TB2M 発行中止			
6/14 (火)		TB1Y 25,000億円 6/20発行			米FOMC(1日目) 4月の米企業在庫 5月の米小売売上高 5月の英消費者物価指数
6/15 (水)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~) 4月の石油等消費動向統計(経済産業省 13:30)	TB3M 44,000億円 6/20発行	交付税借入 10,500億円 6/24借入		米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 5月の米生産者物価指数 5月の米鉱工業生産・設備稼働率
6/16 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30)				5月の米消費者物価指数 英中銀MPC結果発表 5月のユーロ圏消費者物価指数改定値
6/17 (金)	1-3月期の資金循環統計速報(日銀 8:50)	流動性供給 4,000億円 6/21発行			5月の米住宅着工件数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給予因
6/13 (月)	900	▲ 3,200	▲ 2,300	全店共通 CP買入 ETF買入 国債補充	▲ 2,500 ▲ 200 100	2,100 100	▲ 400	▲ 2,700	TB3M発行▲44000償還43800
6/14 (火)	0	▲ 4,000	▲ 4,000	被災地支援 国債買入 短国買入		400 12,400 17,500	30,300	26,300	源泉所得税揚げ 社会保障費
6/15 (水)	0	55,000	55,000				0	55,000	年金定時払い 2Y発行▲23000償還7300 個人向け3・5・10Y発行2100 個人向け3Y償還200
6/16 (木)	▲ 1,000	1,000	0				0	0	
6/17 (金)	▲ 1,000	1,000	0				0	0	交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲ 1,100	49,800	48,700	—	▲ 2,600	32,500	29,900	78,600	

6/13は日銀予想、6/14以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、14日に源泉税揚げ・社会保障費の払い、15日に年金の定時払いがある。週を通してみると当座預金は大幅余剰になるものの、積み最終週に入って調整の取りが見られており、15日まで調達意欲が高い状態が続くと考えられる。

短国市場は、14日に1Y物、15日に3M物の入札が予定されている。1Y物に関してはオペ見合いの買いが入ってくると予想されるため、引き続き強い結果になると考えられる。

CP市場は、15日にCP等買入オペが4,500億円オファーされる予定となっている。

主要なイベントとしては、14・15日のFOMC、15・16日の日銀金融政策決定会合、16日のMPC等が挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入